

平成22年 9月13日  
独立行政法人  
日本原子力研究開発機構  
敦賀本部

## 高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る調査状況について

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力28万kW）は、現在、燃料交換作業の後片付け中ですが、8月26日、原子炉建物において炉内中継装置<sup>\*1</sup>を取り外す作業中に、原子炉容器内より約2m位吊り上げた位置から落下しました。

その後の調査により、原子炉機器輸送ケーシング（AHM<sup>\*2</sup>）吊り上げ装置グリッパの爪<sup>\*3</sup>を開閉する「爪開閉ロッド」の連結部のU字金具のネジの緩みにより約90度回転していること、また、落下した炉内中継装置については、正規の位置に保持されていることを確認しました。

一方、AHM本体の2つのグリッパ爪のうち、270度方向の爪の両端においてずれ痕が、90度方向の爪については、ずれ痕は無いものの、傷が確認されました。このため、炉内中継装置上部ハンドリングヘッド<sup>\*4</sup>のCCDカメラによる調査を実施し、ハンドリングヘッド部の270度方向の内側垂直面にすり痕が、90度方向の内側垂直面に細かい筋状のすり痕が確認されましたが、ハンドリングヘッドの内側下面には、すり痕等は認められませんでした。

【8月26日、29日、9月2日、3日、11日お知らせ済み】

これまで進めてきました炉内中継装置の落下にかかる調査作業については、9月11日までの観察をもって、現状で実施可能な調査を全て終了しました。

現在は、これまでの調査結果などの詳細な確認を進め、AHMの爪開閉ロッドの改造方法や炉内中継装置の引き抜き及び調査方法など、今後の対応方針について検討・とりまとめを行っているところです。

とりまとめ結果については、まとも次第お知らせしてまいります。

今後の調査作業としては、落下した炉内中継装置の原子炉容器内からの引き抜き・点検、及び炉内中継装置を受け止めた燃料出入孔スリーブ据付部やスリーブ内面の点検などを計画しておりますが、その準備として原子炉容器内のナトリウム液面を、運転状態におけるレベルからメンテナンスを行うレベルまで下げることといたします。

この作業に先立ち、後備炉停止棒駆動機構駆動部をしゃへいプラグ上部より取り外すことといたします。

\*1：燃料交換時に炉心と燃料出入設備との間で炉心構成要素を移送する燃料交換設備の構成機器の一つ。

\*2：AHM (Auxiliary Handling Machine)

\*3：グリッパに取り付けてある、炉内中継装置を掴むための爪のこと。

\*4：炉内中継装置を吊り上げ、吊り下ろすため、AHM吊り上げ装置グリッパ爪によって掴む炉内中継装置の上部をいう。

以上